教会指導者の継承へと続く重要な出来事

シドニー・リグドン *1844 年 8 月 3 日*シドニー・リグドンがノーブーに到着した。シドニーはジョセフ・スミスの大統領選挙戦に向けて備えるためにペンシルベニアにおり，そこでジョセフ・スミスの死について知った。シドニーはノーブー到着の翌日，ジョセフの亡き今，自分が「後見人」として教会を導くことを公に申し出た。

*1844 年 8 月 5 日*改宗して 5 か月ばかりのジェームズ・J・ストラングは，ミシガン州フローレンスにおける聖徒たちの集会で説教をした。ジェームズは集会の場で，ジョセフ・スミスが記したという偽りの手紙を見せ，それを根拠に自身が預言者の後継者であると主張した。

1844 年 8 月 6 日十二使徒定員会のブリガム・ヤング，ヒーバー・C・キンボール，ライマン・ワイト，オーソン・プラット，ウィルフォード・ウッドラフらがアメリカ合衆国東部への伝道から戻り，ノーブーに到着した。

1844 年 8 月 7 日教会指導者たちがノーブーに集まり，大管長会でジョセフの顧問を務めていたシドニー・リグドンが話をした。シドニーは示現を目にしたこと，また「だれもジョセフの後継者になることはできない」と主張したうえで，自分が教会の「後見人」となることを提案した（in “History of Joseph Smith,” *Millennial Star*, Apr. 4, 1863, 215）。

十二使徒を管理していたブリガム・ヤングもまた，次のように簡潔に語った。

「だれが教会を導こうと，わたしは意に介しません。……しかし知るべきは，神がそれについて何と言われるかということです。ジョセフは，自分がこの世から連れ去られる前に，彼自身が持っていた神権の職に属するすべての鍵と権能をわたしたちの頭に授けました。だれも，どんな団体も，この世，そして来世においてジョセフと十二使徒の間に割り込むことはできないのです。」（Brigham Young, in Manuscript History of the Church, vol. F-1, p. 296, josephsmithpapers.org）

- 自分が当時の教会員であったとすれば，上記のような出来事にどのような反応を示していたと思いますか。
- ジョセフ・スミスが王国にかかわる鍵を十二使徒定員会会員たちに授けていたと知ることは，聖徒たちがこの件に関する神の御心を理解するうえでどのような助けになったと思いますか。